

やまもも 第25号

高知大学医学部医学科同窓会
会長 廣瀬 大祐
〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮
TEL/FAX:088(866)0034
メール: dosokai.j@kochi-u.ac.jp
<http://www.kochi-ms.jp>

平成28年同窓会総会ご案内と会長選挙候補者募集

平成28年8月6日(土) ホテル日航高知旭ロイヤル
午後5時～ 総会 午後6時～ 講演会 午後7時～ 懇親会
※詳細は11頁に掲載しています。

同窓会名簿発行及び協賛広告募集について

同窓会活動の基盤は名簿となります。会員名簿は2~3年毎に発行しており、今年が発行の年です。個人情報に配慮しつつ、より正確なものにするために、卒業年度の取りまとめを行うよう学年幹事を設けることとしました。同窓会事務局・学年幹事の情報を総合して名簿を作成する予定です。つきましては、会員の皆様の調査へのご協力とあわせて、広告掲載にもご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

※収集した個人情報は同窓会活動にのみ活用します。

協賛広告は、A4モノクロ1頁80,000円、1/2頁40,000円、1/4頁20,000円、1/8頁10,000円です。ご希望される方は版下をメールまたは郵送にて事務局までお送りください。印刷したもの、データのどちらでも構いません。

目次

会長から一言	廣瀬 大祐	2
平成27年総会開催報告		3
講演会要旨	阿波谷 俊英	3
30年ぶりの同窓会	森木 章人	7
平成7年卒業生 卒後20年記念同窓会を開催しました!	高杉 尚志	9
医学科学生指導の状況とその取り組みについて	降幡 睦夫	10
同窓会事務局からのお知らせ		11

《会長から一言》

同窓会会長 廣瀬 大祐

同窓会の使命の一つとして、会員相互の連絡・連携があります。

昭和 59 年に第 1 期生が「高知医科大学」を卒業して、平成 22 年には第 27 期生が初めての「(新) 高知大学医学部」卒業生となり、平成 28 年春には第 33 期生が卒業し、30 年以上の歴史となりました。「おこうだより」も高知大学医学となって第 13 号になります。時代とともに会員相互の連絡方法もかわり、個人情報の取り扱いも厳しくなります。

いろいろなご意見をいただきますが、今年は名簿を作成します。個人情報の取り扱いには細心の注意を払いますし、電子媒体として外部に流出することはありません。同窓会および大学からの情報発信にのみ使用させていただきます。

なにとぞご協力よろしくお願いします。

その他、今夏以降はホームページ、フェイスブックページでの情報発信を増やしていきます。登録おねがいします。

《平成 27 年度 同窓会総会開催報告》

平成 27 年 8 月 1 日（土）午後 5 時より平成 27 年同窓会総会が開催されました。また、午後 6 時より高知大学医学部家庭医療学講座 教授 阿波谷 俊英 先生による講演会「どげんかせんといかん！ー地域医療に貢献する人材育成に向けてー」を開催いたしました。

午後 7 時からの懇親会では卒後 30 周年（昭和 60 年卒業）、卒後 20 周年（平成 7 年卒業）を記念して同期会も開催されました。（於：ホテル日航高知旭ロイヤル）

《平成 27 年度 同窓会総会講演会要旨》

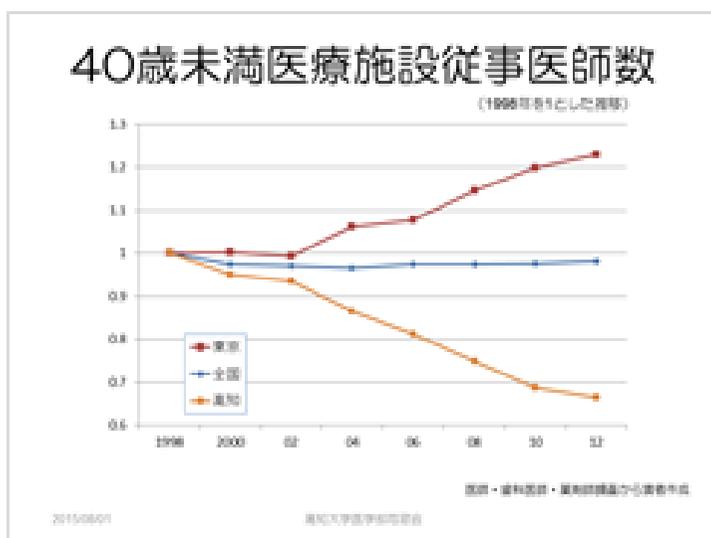
「どげんかせんといかん！ー地域医療に貢献する人材育成に向けてー」

高知大学医学部家庭医療学講座 教授 阿波谷敏英

このたび、廣瀬会長のご高配により、同窓会総会で講演の機会をいただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。さて、講演のタイトルを「どげんかせんといかん！」にしたのは理由があります。平成 19 年度に現職を拝命した際に、ご依頼をいただき同窓会報やまももに寄稿した拙文が同じタイトルでした。自身の振り返りを含め、この 8 年間に高知大学医学部が取り組んできたことを俯瞰するつもりで講演させていただきました。

高知県は全国的にみても人口あたり医師数は多いのですが、この 10 年余り、医療現場は医師不足に喘いでいます。それは、医師の高知市周辺への集中が進み地域の疲弊が進んでいること、40 歳未満の若手医師が大きく減少したことが挙げられます（右図）。

これは全国的な傾向ですが、2004 年の初期臨床研修の必修化以降、大学病院の研修医が減少しています。高知県内でも大学病院の研修医の数は低迷し、3 年目以降の入局者も減少し、地域に医師が循環しなくなりました。これが地域医療機関の疲弊を強くし、さらに医師が離れるという負のスパイラルに陥っていたのです。若者の都会志向は強く、私自身の赴任当時には、県外



出身の学生が卒業後は地元に戻ろうと考えているものが多いばかりか、高知県出身者ですら都会志向であることに驚きを感じたものでした。

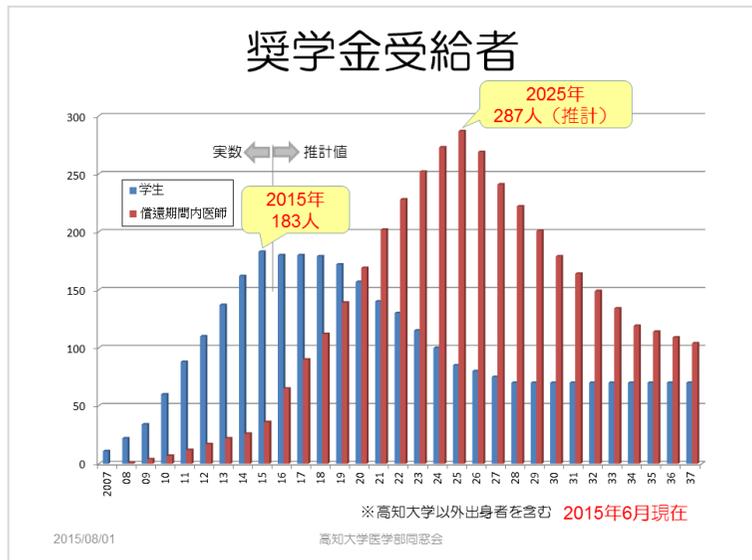
地方大学にとって地域医療確保は喫緊の課題であり、国としても医学部の入学定員を増やし、その多くを地域枠として地元自治体と協力しながら地域定着策をはかるように施策が進められました。高知大学も 2008 年より地域枠として推薦入試Ⅱを開始し、2010 年よりも一般入試にも地域枠併願を導入し、1 学年あたりの入学定員 115 人のうち 25 人を地域枠としています。地域枠入学の学生はもちろん、他の入試制度の学生も希望により高知県医師養成奨学貸付金を貸与しています。高知大学では、入試制度の如何に関わらず奨学金を受給している学生を SEED と呼んでいます。学生自身が名づけた SEED には、「高知県の医療の種になる人」、「積極的に種を蒔こう」、「シード権を持っている」との意味が込められています。2015 年度には、医学科 700 人の学生のうち SEED は 176 人 (25.1%) を数えます。他大学にも同じ奨学金を受給する学生が在籍しており、SEED 全体では 183 人となっています。

SEED 卒業生は、現在 42 人（高知大学 36 人）ですが、これから急激に増加し、2025 年には償還期間内医師は 287 人になると試算しています。

ただ奨学金を与えさえすれば、地域医療に貢献するわけではありません。地域志向性の高い学生を選抜すること、地域医療教育の充実や、ロールモデルを提示すること、

キャリア形成支援をすることが重要と考えています。2009 年に脇口学長先生（当時、医学部長）に地域枠学生等アドバイザーワーキンググループを組織していただきました。私はその座長を拝命しております。ワーキンググループの活動としては、キャリア形成を踏まえた奨学金制度への提言、入学直後の地域枠学生と医学部長との懇談、奨学金制度の説明会、知事との意見交換会、幡多地域医療道場、学生との面談、メーリングリスト、飲みケーションなどをおこなっています。SEED 新入生歓迎パーティー、幡多地域医療道場には同窓会からご支援をいただいています。改めてお礼を申し上げます。

2015 年現在、SEED 卒業生は 42 人ですが、そのうち 17 人は初期臨床研修医です（次頁図）。また、入学時より 6 年間受給して卒業した者は 2 年目の研修医が先頭です。これからキャリア支援の重要性がさらに増すものと考えています。とくに 2017 年から新しい専門医制度が開始されます。奨学金/地域枠だから十分な臨床能力が身につかないということがないように、県当局とも議論を重ねているところです。県当局からは、基本診療領域



の専門医取得に制限を加えないこと、後期研修も奨学金の勤務義務の中に一定期間含めていく方向で検討することをお約束いただいております。

SEED 卒業生のキャリア形成と、県内の地域医療確保、高知大学医学部の発展、の三者は相反するものではなく、相乗効果を持って実現可能なものだと確信しております。

SEED卒業医師の動向	
<ul style="list-style-type: none"> 医籍登録年度 - 2008年 1名 - 2009年 3名 - 2010年 4名 - 2011年 4名 - 2012年 6名 - 2013年 5名 - 2014年 6名 - 2015年 13名 計42名 	<ul style="list-style-type: none"> 勤務状況 - 初期臨床研修 17名 - 指定医療機関 7名 - 指定支援医療機関 6名 - 猶予期間 5名 - 償還免除 3名 - 償還 4名 診療科(初期臨床研修/償還者除く) - 小児科 4名 - 整形外科 4名 - 麻酔科 3名 - 産婦人科 3名 - 精神科 3名 - 内科 2名 - 脳神経外科 1名 - 耳鼻咽喉科 1名
2015/08/01	※高知大学以外出身者を含む 2015年6月現在 高知大学医学部同窓会

そもそも高知大学医学部は何をすべき大学なのか？ そのために、どんな学生を集めるのか？ どんな教育をすべきなのか？ ということが問われています。2013年12月に文部科学省から公表された国立大学ミッションの再定義で、強みや特色、役割として高知大学医学部は4項目が掲げられています。そのうちの1つに「県内の地域医療を担う医師の養成を積極的に推進する。(中略)また、高知県と連携し、県内の地域医療を担う医師の確保及びキャリア形成を一体的に支援し、医師の偏在解消に貢献する。」とあります。

(http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2013/12/18/1342100_14.pdf)

残念ながら高知県、高知大学にネガティブな感情を持っている学生が居るように感じています。「センター試験で失敗したので、第一志望校を受験できず、仕方なく高知大学に入学した。」という学生にとっては高知に来ること自体が不本意であるのかもしれませんが、「医師免許を得るために我慢して高知大学で6年間学ぶ。」ではなく、「高知大学で学びたい。」と意欲を持って門をくぐる学生が増えて欲しいと思っています。そのために高知大学らしい医学教育をおこなっていく必要があります。

また、学生だけの問題ではなく、教員も学生に十分な愛情を注ぐ必要があります。学生の名前を憶えていない、話をしたこともない、という教員を学生が慕うはずもありませんし、まして卒業後も指導してもらいたいと思うはずもありません。こうした危機意識を教授会でも共有するようになりつつあります。喜ばしいことに、32期生の学位授与式には従来よりも多くの教員が参列していました。

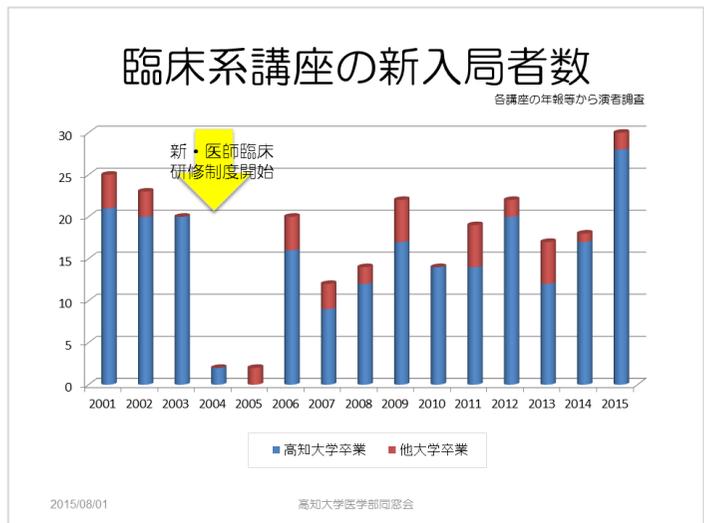
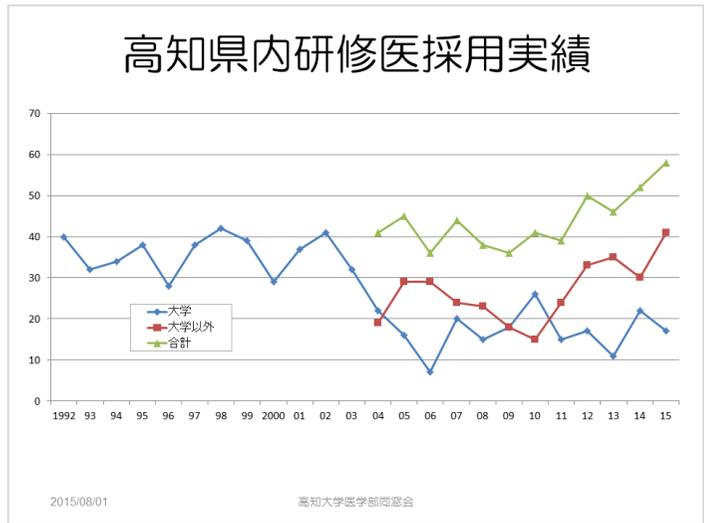
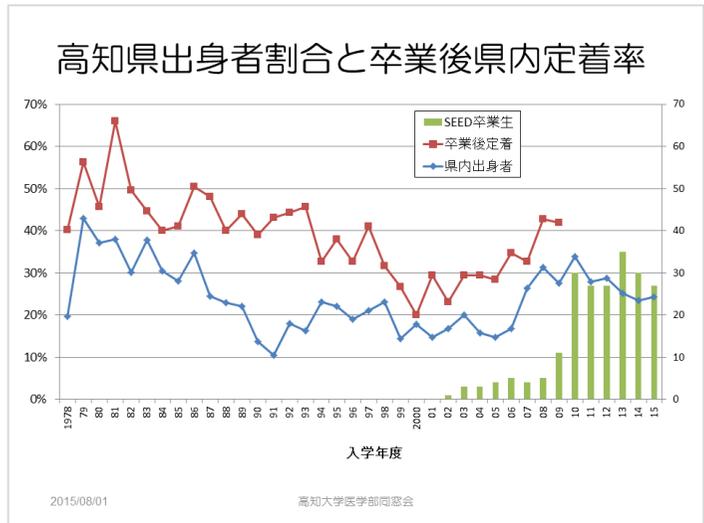
ここ数年、高知県、高知大学にポジティブな感情を持って卒業する学生が、徐々にですが増えてきているように感じています。県外に出ても高知大学卒業生として胸を張って活躍してくれることを期待しています。そのような卒業生が増えていくと、仮に卒業後の県内定着率が同程度であっても、その価値には雲泥の差があると考えています。

実は、近年、卒業生の県内定着率、県内の研修医数、臨床系講座の新入局者数は増加傾向にあります(右図)。これからSEED卒業生も急激に増加していきますので、この流れに追い風となると考えています。人材の増加とともに、地域医療機関の疲弊が解消され、

指導医の確保や研修体制の向上が進み、さらに県内で研鑽を積む若手医師が増加することを期待しています。

少し明るい兆しが見えて来てはいますが、まだまだ予断を許さない状況が続いております。同窓会の先生方におかれましては今後ともご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

高知大学医学部の卒業生の中に、先輩から後輩まで連綿とつながる心地よい文化が醸成されることを心から願っております。



30年ぶりの同窓会

高知医科大学第2期卒 森木章人

早いもので、大学を卒業して30年の月日が経ちました。これまで2期生は全体の同窓会らしいものをしてこなかったのですが、このたびの卒後30周年を記念して大々的に同窓会をやるという話が一部で持ち上がり、昨年8月1日（土）にホテル日航高知旭ロイヤルで同窓会を開催しました。高知県内外から（なかには海外から）34名がこの日のために駆けつけてくれました。なかには30年ぶりに会った同級生もいて、最初は誰かわからずにとまどいがありました。皆さん学生時代の面影が残っており、すぐに打ち解けることができました。一次会からそして二次会へ、夜遅くまで話は尽きず、時間を忘れて語り合いました。また、翌日の日曜日はゴルフ組、テニス組、観光ツアー組に分かれて、それぞれ楽しい一日を過ごしました。今回久しぶりに同級生に会って、皆がそれぞれの立場で頑張っている姿をみて私自身元気をもらいました。そして、あまりに楽しかったので、これからも場所を変えて毎年同窓会を続けていこうということになりました。（文責：2期生 森木 章人）



高知大学医学部第2期生同窓会 平成27年8月1日於：ホテル日航高知旭ロイヤル



平成7年卒業生 卒後20年記念同窓会を開催しました！

医療法人高杉会 高杉こどもクリニック院長 高杉尚志（岡山県総社市）

2015年8月1日に高知大学医学部同窓会総会・懇親会に合わせて、平成7年卒業生の卒後20年記念同窓会を開催しました。真夏の高知に、全国から41名が終結し、一次会の同窓会総会・懇親会で、平成7年卒業生が丸テーブル4つを占めるという、かつてない光景に胸が躍りました。我々の卒業した平成7年（1995年）は、1月に阪神大震災が起き、3月にオウム真理教の地下鉄サリン事件が起きるなど、大事件が立て続けに起きた年でした。そんな大変な社会情勢の中、卒業した我々も20年の時を経て、脂ののりきった40代半ばの医者になっていて、お互いを誇らしく感じました。同窓会総会・懇親会で始まった我々の卒後20年記念同窓会は、二次会からイタリア料理のラ・ビータに会場を移して、更に盛り上がったのは言うまでもありません。暑い高知の夜に、20年前にタイムスリップしたような思い出話、卒業後の苦労話、これからの夢など、爆発的に語り合いました。今回、41名もの卒業生が集まる事が出来たのは、平成7年卒業生の在学中からの繋がりや強さによるところが大きいと思います。残念ながら参加することが出来なかった平成7年卒のみなさんも、次回の記念同窓会は、5年後、2020年に卒後四半世紀記念同窓会、ぜひ、高知で集まりましょう。



医学科学生指導の状況とその取り組みについて

高知医科大学5期生 医学科長 降幡 睦夫

一地方大学としての本学医学部では、教員数に依存するマンパワーおよび設備規模の観点からは、必ずしも恵まれていると言い難いのですが、全教職員は優れた医師の育成に向け、日々誠心誠意取り組んでおります。

学生には、学務委員会、医学教育創造・推進室、アドバイザー教員、保健管理センター及び学生課スタッフが一体となって対応し、医師となるべき自覚と責任を持たせるよう工夫しており、修学困難な問題を抱えた学生に対しては、それら学生の進路変更も視野に於いての修学、進級指導に当たっています。アドバイザー教員は、基本的にはその学年で開講される科目担当教員が担当し、1年生から4年生に対してはそれぞれ10名～16名のグループに1名の教授もしくは准教授を当てております。一方で、進路指導が喫緊の課題となる5年生・6年生には、原則5人・6人のグループに1名の教授（臨床医学部門）を置き、准教授もしくは講師を加えた2名の教員配置をとることで、より丁寧かつ高密度な対応が出来るよう体制を整えております。更に教員学生間の親睦と意見交換を図る目的で、各学年毎年2回程度の懇談会を開催しております。なお同窓会のご厚意にて、5・6年生1名につき4,000円の懇親会費を頂戴しており、この場を拝借して感謝申し上げます。

1年生には学業のみならず新しい環境適応へのサポートが必要であり、専門科目を意識した基礎科目の修得と、教養育成のための科目修得も検討しており、EMEや学務委員会が主催する医学概論は、学生の高い関心を集めております。2年生より専門基礎科目が始まり、4年生第2学期前半までには臨床科目も修得完了となりますが、この間、専門科目教育を通して医師となるべき自覚を促すよう心がけ、4年生後半における共用試験（OSCE、CBT）により、臨床実習に必要な知識と診察手技能力を確認します。5年生以降はクリニカルワークショップ参加により、医師となるべき覚悟をもたせ、アドバイザー教員及び臨床各科を中心とした進路指導を積極的におこない、本学マッチング率向上にも貢献できる体制を実践しております。

また、2年生から4年生にかけては、独自性の高いリサーチマインドを持った医師・医学者を育成することを目的とした先端医療学コースが正規授業の専門科目として組み込まれており、毎年20名以上の新規履修者があり、履修学生の学会発表での受賞など成果が現れ始め、今後こうした授業プログラムをさらに発展させていく所存です。

6年生は卒業試験を控える最終学年であり、卒業試験の開始時期・期間・内容について、卒業試験自体が国家試験合格にも貢献できるようその内容の再評価を行っております。

医師国家試験対策としては、自主学習室等の環境整備、アドバイザー教員、医学教育創造・推進室、医師養成強化対策チームによる個別学生指導、国家試験模擬試験受験費用3回分の義務化、学生の希望に応じたミニレクチャー等、現在積極的に取り組んでおります。義務

化した模擬試験の学生個人結果は医師養成強化対策チームにて把握し、必要に応じてアドバイザー教員または科目担当教員に提供し、国家試験対策に活用しています。さらに既卒者に対しても、同窓会のご支援のもと、国家試験模擬試験受験費用（一人あたり28,500円）を御負担いただき、医学教育創造・推進室が中心となってサポートしています。

すべての医学科教員は、各自の学生教育内容に対する再評価とそれを踏まえての意識改革に取り組み、得られた結果を各講義・実習・クリニカルクラークシップ等に反映しています。我々は、学生が日々地道に将来の医師に向けた準備に怠ることなく努力を重ね、未来への可能性を見失うことなく、自由な校風の中で若者から大人へと成長できる、そんな環境を提供したいと考えます。そして彼ら一人一人との対話を尊重し、時間をかけ丁寧に見守りながら、更に我々の夢を語りかけていくことで、高知に根を張り、やがて先鋭の若手医師として開花するその時を享受したいと願います。

《同窓会事務局からのお知らせ》

同窓会総会・講演会および懇親会開催の ご案内及び会長立候補者募集と出欠のお返事をお願い

平成28年高知大学医学部同窓会総会を下記の日程で行います。皆様のご参加をお待ちしています。今年は2年に1度の会長選挙の年です。立候補者を募集いたします。立候補をされる方は、6月末日までにメール（下記アドレス）にて簡単な声明文を添付のうえ卒業年度、氏名、連絡先をお知らせください。

また、同窓会総会・講演会および懇親会への出欠のお返事をおよび住所のご連絡をFAX：088-866-0034 またはメール：dosokaij@kochi-u.ac.jp にて7月22日（金）までにご連絡ください。FAX返信用紙を同封します。

日 時：平成28年8月6日（土）
午後5時～ 総会・講演会 午後7時～ 懇親会
場 所：ホテル日航高知旭ロイヤル
参加費：5,000円

同窓会名簿発行及び協賛広告募集について

名簿への掲載項目は、勤務先名、勤務先住所、勤務先電話、メールアドレスです。掲載を希望されない場合は、その項目を事務局までご連絡ください。

住所変更されましたらFAXまたはメールにてご連絡ください。

協賛広告は、A4モノクロ1頁80,000円、1/2頁40,000円、1/4頁20,000円、1/8頁

10,000 円です。ご希望される方は版下をメールまたは郵送にて事務局までお送りください。
印刷したもの、データのどちらでも構いません。

会費納入のお願い

未納の方は下記口座への納入をお願いします。終身会費 5 万円
会費納入状況のお問い合わせは事務局まで。

【会費振込口座】

郵便局からのお振込み

口座番号：01680-2-130874 高知大学医学部医学科同窓会

他銀行からのお振込み

店 名：一六九店

預金種目：当座

口座番号：0130874 高知大学医学部医学科同窓会

医師賠償保険団体加入のお知らせ

医学科同窓会で勤務医師賠償保険責任保険を団体扱いで損保ジャパンと契約しています。
現在、約 200 名の加入者があり、保険料について団体割引 15%（平成 28 年度）の適用
を受けております。 詳細につきましては下記取扱代理店までご連絡ください。

契約型	対人 1 事故につき	対人 1 年間につき	保険料（団体割引 15%）
100 型	10,000 万円	30,000 万円	43,206 円
150 型	15,000 万円	45,000 万円	48,994 円
200 型	20,000 万円	60,000 万円	54,791 円

【取扱代理店】

はらだ保険企画 〒780-0063 高知市昭和町 10 番 5 号

TEL：088-823-7152 携帯：090-1007-8339

E-mail：daiwa-si@dion.ne.jp

事務局連絡先

783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部医学科同窓会

TEL&FAX : 088-866-0034

メール : dosokaij@kochi-u.ac.jp